練習問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①ふるえながら、ほらあなをながめまわした時、暗さになれたぼくたちは、いようなものをみて、ぎくっとした。一メートルとはなれぬ、ほらあなの中に、三十頭に近いシカの群れと、十五、六頭のサルとが、シカはたがいに体をすりつけて横になり、サルは、人間のようにひざを立てて、かたまりあっているのであった。【ア】

②かれらは、ぼくたち三人が、ほらあなの中に転げこんでいっても、③べつに逃げる様子も、さわぐ様子もなく、また、べつに、気にとめるふうもなく、ふしぎに静まりかえっているのである。【イ】

だれかの探検記で、大嵐の時、ヘビもネズミも山犬も、同じところで、いつもは、たがいに、にらみ合い、かみ合っているものたちが、仲よく避難していた話を読んだことがあるが、動物たちは、おたがいの体に、同じような危険がおそいかかってきた場合には、おたがいに助け合うというような習性をもっているのかもしれない。【ウ】

ぼくたちは、はじめは、おどろいて、そのシカの寝姿を見ていたが、そのやわらかそうな毛なみが、そのかわいてあたたかそうな体の色が、ぼくたちの、生きたい、生きたいという気持ちを、むしょうにかきたてて、ぼくたち三人は、むちゅうでシカの群れの中にとびこんで、そのぬくぬくした体にまきつくと、ぼくたちの冷えきった体を、ぐっとおしつけた。【エ】

なんという、よい気持ちだろう。ほのかなぬくみが、野生のシカたちの毛皮を通して、ぼくたちの体に、こころよくしみてくる。これで、ここえ死にから救われるという安心のためか、つかれて、冷えきった体に、適度のぬくみをえたためか、ぼくたちは、いい音楽でもきいているような、うっとりとした気持ちで、そのまま深いねむりに落ちていった。

さあ、どのくらいの時間、ぼくたちはねむったのであろうか。とつぜん、どすんと、投げ飛ばされたような気がして、はっと目がさめた。④目がさめて、ひやっとした。三十頭近いシカの群れが、いっせいに立ちあがって、大きな角をふりたてていた。いったい、どうなることであろうか。鉄砲は、着物といっしょに、ほらあなのすみに投げてある。武器のないぼくたちは、シカの群れがあの鋭い角で向かってくれば、せっかく助かった命も、またここで捨てなければならぬのだ。が、どうすることもできぬので、運を天にまかせてじっと、横になっていた。しかし、シカたちは、べつにぼくたちに目もくれず、一列にそろって、ほらあなの外に歩きだして行ってしまった。

シカたちは、静かに、がけを伝わって、谷間におりていく。しかも、その先頭に立っているのは、あの、片耳の大シカではないか。

「ああ、あいつだ。あの片耳だ。」

こうつぶやくと、次郎吉さんは、ほらあなのすみに投げてあった銃を取り上げて、すばやく肩にあてると、片耳の大シカの頭の真ん中にねらいをつけた。ぼくは思わず叫んだ。

「あっ！　よしなよ、次郎吉さん。あの片耳の大シカのためにきょうは命が助かったのじゃないですか。」

おじさんもにっこりうなずいて、かるく次郎吉さんの肩をたたいた。

⑤次郎吉さんは、ちょっとはずかしそうな顔をしたが、すなおに、うなずいて、銃をかたわらにおいた。

（椋鳩十「片耳の大シカ」より）

□**問一**　次の文は、文章中の【ア】～【エ】のどこに入りますか。記号で答えなさい。

シカたちは、べつにさわぎたてもしなかった。

□**問二**　この文章に出てくる人物をすべて、書きぬいて答えなさい。

□**問三**　線①「ふるえながら」とありますが、なぜふるえていたのですか。次から選び、記号で答えなさい。

ア　ほらあなの中が、暗いのでこわかったから。
イ　たくさんのけものを目の前にして、おそろしかったから。
ウ　こごえ死にするような寒さで、体が冷えていたから。
エ　ほらあなが、ふしぎなほど静まりかえっていたから。

□**問四**　線②「かれら」とは何を指していますか。文章中から二十一字でさがし、はじめと終わりの五字を書きぬいて答えなさい。

～

□**問五**　ほらあなの中で、シカやサルはどのようにして寒さをしのいでいましたか。それぞれ答えなさい。

シカ

サル

□**問六**　線③「べつに逃げる様子も、さわぐ様子もなく」とありますが、その理由を「ぼく」はどのように考えましたか。それが書かれている段落をさがし、はじめの五字を書きぬいて答えなさい。

□**問七**　シカやサルの様子を見て、「ぼくたち」はどうしましたか。次から選び、記号で答えなさい。

ア　おそろしくなって、ほらあなから外へ逃げ出した。
イ　シカやサルに見つからないように、すみのほうにかくれた。
ウ　シカの群れの中に入って、体をおしつけてねむった。
エ　サルの間にわりこんで、ひざを立ててすわった。

□**問八**　線④「目がさめて、ひやっとした」とありますが、「ぼく」はどんな危険を感じたのですか。「～危険。」の形で二十字以内で答えなさい。

□**問九**　線⑤「次郎吉さんは、ちょっとはずかしそうな顔をした」とありますが、なぜはずかしいと思ったのですか。次の文の□にあてはまる言葉を考えて答えなさい。

□のに、それを銃でうつのはよくないと、自分でも思ったから。

□**問十**　この文章を大きく二つの場面に分けるとすると、第二の場面はどこからはじまりますか。そのはじめの五字を書きぬいて答えなさい。

同訓異字・同音異字・同音異義語

●訓読みが同じで、意味がちがう漢字を「**同訓異字**」といいます。同訓異字の多くは、送りがなをともなったものです。

例
「たつ」 立つ……両足で立つ。／建つ……ビルが建つ。
「はやい」 早い……朝起きるのが早い。／速い……スピードが速い。
「なく」 泣く……赤ちゃんが泣く。／鳴く……ニワトリが鳴く。

●音読みが同じで、意味がちがう漢字を「**同音異字**」といいます。

例
「エン」……円・園・遠・塩など
「トウ」……冬・当・東・島・頭など
「チョウ」……町・長・朝・帳・調など

●また、熟語の音読みが同じで、意味のちがう「**同音異義語**」があります。

例
「カンシン」 関心……オリンピックに関心がある。／感心……勇かんな行いに感心する。
「キョウソウ」 競走……百メートルの競走。／競争……点数を競争する。
「イガイ」 意外……意外にむずかしい。／以外……それ以外考えられない。

※ 同音異義語の中には、まぎらわしいものも多くあります。その意味や使い方のちがいを正しく覚えるようにしましょう。

□問一 次の□にふさわしい漢字を、〔　〕の中から選んで書き入れなさい。

(1) ぼんおどりの□わ□に入っておどる。〔和・輪〕

(2) 庭にまいた種が□め□を出す。〔芽・目〕

(3) □なか□のよい友達が三人いる。〔中・仲〕

□問二 次の――線部を漢字に直しなさい。

(1) ア 顔色をかえる。
イ 書状をもってあいさつにかえる。
ウ ほしかった本がやっとかえる。

(2) ア 飼い犬の重さをはかる。
イ 五十メートル走のタイムをはかる。

(3) ア 三日間、家をあける。
イ 午前十時に店をあける。
ウ 新しい年があける。

(1) (2) (3)
ア ア ア
イ イ イ
ウ ウ

□問三 次の□にふさわしい漢字を、〔　〕の中から選んで書き入れなさい。

(1) はん人が自□しゅ□してきた。〔首・主〕

(2) コンサートホールの□かい□場は六時半です。〔会・開〕

(3) 主人公の□しん□理を想像する。〔真・心〕

(4) □きょう□力して、祭りの準備(じゅんび)を進める。〔強・協〕

(5) ケーキを五人で□とう□分する。〔当・等〕

□問四 次の各組の熟語の□には、同じ音読みの漢字が入ります。それぞれ漢字を書き入れなさい。

(1) キュウ　ア □用　イ □食　ウ □止
(2) セツ　ア □季　イ □明　ウ □左
(3) レイ　ア □失　イ □静　ウ □号
(4) ヒョウ　ア □公　イ □目　ウ □投
(5) サツ　ア □観　イ □印　ウ □改

□問五 次の――線部を漢字に直しなさい。

(1) ア 工場に大きなキカイがたくさんならぶ。
イ 自分の力を試すよいキカイだ。

(2) ア リョウシンそろって旅行に出かけている。
イ リョウシンにはじない行いをする。

(3) ア 自分のシメイを果たす。
イ 次の委員にシメイされる。

(4) ア コウセイな判断をしなくてはならない。
イ コウセイに残る作品を創る。

(5) ア ゼンシンを使った運動。
イ 汽車がゆっくりとゼンシンする。

(6) ア 会議のショキをつとめる。
イ 画家のショキのころの作品を集める。
ウ ショキばらいに、家の前に水をまく。

(1) (2) (3) (4) (5) (6)
ア ア ア ア ア ア
イ イ イ イ イ イ
ウ

小４国語　後期　第16回

氏名

コトバのアルゴリズム

□の中に文字を入れて、右側の文と同じ内容の文を作りなさい。

① ヒートアイランド現象とは、都市の気温が周囲に比べて高くなり、気温の分布図をかくと高温部が都市部を中心とした島のように見える現象を指す。

夏の都会では、中心部に近づくと気温が上がり、中心部から□。このように、高温部が都市部を中心とした分布する現象を、□という。

② 『坊っちゃん』は明治・大正時代の文豪、夏目漱石が四国の旧制松山中学で教員をしていた経験をもとに書いた小説です。

□は、□、明治・大正時代の文豪です。彼の代表作の一つである□での教員生活を下敷きにしています。

③ 手塚治虫は日本漫画史上最大の漫画家の一人といわれており、数々のヒット作を生み出したが、日本のテレビアニメの基礎を作った人物としても知られている。

日本のテレビアニメは、□が基礎を作ったことで□。また、彼は漫画家として□に恵まれており、□の歴史上、最大の漫画家の一人といわれている。

④ 小学生の通学用の帽子によく黄色が用いられるのは、黄色がものを目立たせるからだ。

□、□黄色がよく用いられる。

第3回 CCC 漢字の練習 1

候・借・倉・健

学習日　月　日　できた数　問

候 10
(おん) コウ
【イ】 (くん) (そうろう)

天候　時候　気候
おだやかな天候。

借 10
(おん) シャク
【イ】 (くん) か―りる

借用　借料(りょう)　借家
借家で生活する。

倉 10
(おん) ソウ
【人】 (くん) くら

倉庫　船倉　小倉あん
倉庫にしまっておく。

健 11
(あん) ケン
【イ】 (くん) (すこ―やか)

健全　健康　強健
健全な体。

漢字の成り立ち

矢で的をねらう位の高い人をうかがう人で、うかがうの意。

日数を重ねることと人から、手を「借りる」意。

食べ物を入れておく建物の意。

筆を持つ手と道で、まっすぐ進む意。人がついて強い様子を表す。

筆順　練習

熟語と使い方

次の――線の読みがなを書きなさい。

□(1) 借地の面積。 ―――

□(2) 借家で生活する。 ―――

□(3) 健全な体。 ―――

□(4) 甘い小倉あん。 ―――

□(5) 倉庫にしまっておく。 ―――

□(6) かぜの兆候。 ―――

□(7) おだやかな天候。 ―――

□(8) 健康に気をつける。 ―――

第3回 CCC 漢字の練習 2

候・借・倉・健

学習日　月　日　できた数　問

次の――線部を漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなもひらがなで正しく書きなさい。

□(1) シャクや住まい。

□(2) センソウに運び入れる。
ふねの貨物を積むところ

□(3) キョウケンな肉体。

□(4) 多くのケンジが技を競う。
元気な若者

□(5) 地震のチョウコウ。

□(6) こめぐらに保管する。

□(7) 友人から本をかりる。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)

□(8) テンコウに恵まれる。

□(9) シャクヨウ書を書く。

□(10) ソウコの中は涼しい。

□(11) ごケンショウで何よりです。
けんこうで元気なこと

□(12) 暖かなキコウ。

□(13) シャッキンをする。

□(14) くらにを運び出す。
そうこに入っている品物

□(15) ケンゼンな生活を送る。

□(16) ジコウのあいさつ。
四季それぞれの天気の状態

(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)